

授業改善書

科目名	博物館教育論
担当者	奥田 環

授業の概要

博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。
多くの事例を知り、体験することによって、次には自身が主体的な視点をもって博物館教育を考えられるように指導していく。

授業の問題点

博物館教育論は講義で学び得た知識や理論をもとに、実際の博物館活動のなかで自身が体験・実践することを通して、さらに知見を広め習得していくべきものであるが、本年度においてはコロナ禍により、様々な現場の教育活動を見学する機会を持ちにくいことが、残念な点であった。

学生の授業満足度

これまで自身が見聞してきた博物館の教育活動について、体系的・理論的にとらえることを通じ、あらためてその意図するところを理解したり、問題点を見出すことができたことが良かったと考える。
また、自分で企画を考える課題では、それぞれに創意工夫のある取り組みができ、より理解が深まった。

授業改善の課題と方策

博物館活動については、デジタル化が進む中で、展示・教育の概念もより広く多様になりつつある。現場の展示を実際に見ること、作ること、そして展示や資料をもとに展開される現場における教育活動については、これ以後も決して軽んじることはできないが、一方でオンラインを利用した新たな教育活動の提示のしかたについても学び、利用し、自らが構築する技術を積極的に指導していきたい。

その他

学生は総じて博物館学芸員課程の科目の習得に熱心で、興味を持って聴いてくれる手応えを感じている。その熱意を大切に、学生が関心を持ち積極的に臨める授業内容を提供するべく努力する所存である。